

提出日： 2025 年 4 月 1 日

## 研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	阿部 幸信

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2024年4月 1日 ~ 2025年3月31日 2. 2024年9月 1日 ~ 2025年8月31日 3. 2024年4月 1日 ~ 2024年9月20日 4. 2024年9月21日 ~ 2025年3月31日
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	【著作】単著『印綬が創った天下秩序—漢王朝の統治と天下観—』を上梓した(山川出版社、5月)ほか、『史学雑誌』「2023年の歴史学界—回顧と展望—」の項目「歴史理論」を執筆した(6月刊)。【口頭報告】7月、中央大学大学院学術シンポジウム「考古・歴史資料が語る古代ユーラシアの食と住」にコメント「漢魏交替期湖南地域の食と住」を寄せ、3月には公開講演会「日本史探究を世界史にひらく」(於立教大学)において報告「漢委奴国王」金印がひらく世界史への扉」を行った。【海外活動】8月～3月、ミュンヘン大学など欧州各地で資料収集・学術調査を実施した。10月にはミュンスター大学において学術講演“Usage of Local Governor's Seals and State Structure of the Han Dynasty”を行った。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	研究促進期間を通して、主に①考古学・美術史・心性史、②歴史理論・歴史教育、の2つの分野の研究に注力した。いずれも成果は未公表なので、具体的な内容はここでは割愛するが、①では古代・中世ヨーロッパにおける門闕動物像(特に獅子像)の左右配置について多くの新知見を得たほか、魏晋南北朝期の生活史・心性史について新たな考察を試みた。②に関しても、国内外の最新の研究動向・授業実践等に触れることで、これまでの思索を深化させることができた。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	門闕動物像に関する研究成果は、現在進行中の科学研究費補助金(挑戦的研究(萌芽))・特定課題研究費による成果と併せて、2026年度末を目処に学術論文の形で公表することを目指している。魏晋南北朝期の生活史・心性史に関しては、2025年5月にミュンスター大学で開催されるワークショップ“Same and/or Other? Animals in East Asian History”において報告を行ったのち、学術論文をまとめる予定である。またそれとは別に、2025年6月には <i>Monumenta Serica</i> 誌にこの分野の論文を上梓することも決定している。歴史理論・歴史教育に関しては、今後の授業や著述活動に本年度の成果を反映させていく。